

身体障がい者・知的障がい者

地域生活移行推進プロジェクトチーム



報告書記載者：山田委員

運営会議の担当委員：山田委員

令和2年度の重点項目（再掲）

- ・ 地域生活支援拠点等に係る提言書の議論し、提出する。
- ・ 地域生活支援拠点等の運営に必要な詳細部分を議論する。

活動概要

令和2年度の活動実績	令和2年度前半は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動を控えていたものの、後半は、書面会議にて、地域生活支援拠点整備の全体像の確認や緊急受入先調整窓口（コーディネーター）の運用開始に向けた検討を行った。
------------	--

課題の概要（再掲）

課題の概要	課題No.
「精神障がいがある方々の地域移行がなぜ進まないのか」を考えるプロジェクトが2年前に立ち上がる。同様の課題は身体、知的の障がいがある方々にも言えるのではないかと、身体、知的の障がいがある方々の地域移行の実態に基づき、「なぜ」の部分の精査する必要があるのでは、「なぜ」が明確になることで地域移行が円滑に進む部分もあるのでは、との議論の中でプロジェクトチームにて「なぜ」を掘り下げることとなる。同時に、札幌市で地域生活支援拠点を令和3年度より開始するにあたり、地域生活を支える仕組みとしてどのような資源等が必要なのかを提言する。	なし

課題解決に向けた方向性（再掲）

課題解決に向けた方向性	課題No.
・ 地域生活支援拠点事業の中身を理解した上で、地域生活を円滑に送れるよう環境整備、社会資源の整理等を行う行政とともに行う。 ・ 障がいがある方々が、地域移行を円滑に行うために必要な資源を整理する。	なし

プロジェクトの活動期限とそれまでの目標（再掲）

活動期限は、令和2年度末とする。 ・ 地域生活支援拠点を始めるにあたり、地域生活を支える仕組みとしてどのような資源等が必要なのか議論する他、開始までの流れの中で、プロジェクトチームがどう関わったかをまとめた報告集の作成を行う。 ・ 障がいがある方々の地域移行が「なぜ」進まないのか、必要な社会資源等は何かをまとめる。
--

プロジェクト活動の総括

平成30年度のプロジェクト活動開始時から、札幌市の地域生活支援拠点の設置へ向け、拠点に必要な機能の整理や各機能のあり方の検討を行い、令和2年度末に札幌市に地域生活支援拠点が設置された。（別添・札幌市における地域生活支援拠点の整備について）
--

プロジェクト終了後の方向性

令和2年度末に札幌市に地域生活支援拠点が設置されたものの、本プロジェクト終了に伴い、地域生活支援拠点について検討・検証する場がなくなってしまうが、さらなる充実に向け運用開始後の検証・検討の場が必要である。そのため、自立支援協議会にて、地域生活支援拠点の運用状況の検証・検討の場の設置について検討していただきたい。 地域移行に関する課題について具体的な検討ができなかったため、運営会議にて地域移行に関する課題の検討の場を協議していただきたい。
--

こうせいいん
構成員

しめい 氏名	しよぞく 所属
ひらまつ ともり 平松 朋紀	さっぽろししんたいしやう しやふくしじぎやうれんけいきやうぎかい 札幌市身体障がい者福祉事業連携協議会 (グリーンハイム しせつちやう 施設長)
はやし ひろやす 林 広康	さっぽろ し ちてきしやう ふくしきやうかい 札幌市知的障がい福祉協会 (もいわ みかい だい2 この実 寮 施設長)
やまざき ち え み 山崎 千恵美	さっぽろ し ちてきしやう ふくしきやうかい 札幌市知的障がい福祉協会 (に こり いどむ統括施設長)
こんの じゆんこ きたくちいきぶかい ふくぶかいちやう 紺野 順子 (北区地域部会 副部会長)	トライ夢
すずき けんいち 鈴木 健一	さっぽろ かいだいひやう 札幌みんなの会代表
たなか ようこ 田中 陽子	さっぽろ かいだいひやう 札幌みんなの会代表
まきの じゆんこ 牧野 准子	しやう とうじしやこうし かい だいひやう 障がい当事者講師の会すぷりんぐ 代表
ながえ むつこ 長江 睦子	さっぽろ し て いくせいかい かいちやう 札幌市手をつなぐ育成会 会長
おざわ ただやす そうだんし えんぶかい 小澤 忠優 (相談支援部会)	そうだんしつ 相談室すきっぷ
まつさか ゆたか あつべつくちいきぶかい 松坂 優 (厚別区地域部会)	わーかーびいー りじちやう 理事 長
なかがわ つばさ 中川 翼	みなみくほけんふくしか こべつしえんしゆさ 南区保健福祉課 個別支援主査
さとう たかし 佐藤 貴志	しゃかいふくしほうじん さと 社会福祉法人はるにれの里 (さっぽろしじへいしやうしやじりつしえん しよちやう 札幌市自閉症者自立支援センター 所 長)
に わ ともこ 丹羽 智子	ほっかいどうさっぽろやうごがっこう しんろ ちいきかつどうぶ きやうゆ 北海道札幌養護学校 進路・地域活動部 教諭
わたなべ みつぐ しろうししくちいきぶかい 渡邊 貢 (白石区地域部会)	じりつせいかつ 自立生活センターさっぽろ じむきよく 事務局
むらい ともお みなみくちいきぶかい 村井 友生 (南区地域部会)	しゃかいふくしほうじんせいじやうがくえん ちいきしえん かかちやう 社会福祉法人聖 静 学園 地域支援課課長
やまだ くによし みなみくちいきぶかい ぶかいちやう 山田 訓義 (南区地域部会 部会長)	そうだん しえん じぎやうしよ かん りしやけんそう 相談支援事業所グリーンハイム 管理者兼相 談支援専門員

※ ぜんかいほうこく じ れい わ ねん がつぜんたいかい い こう へんこう こうせいいん しめい うし しん
 前回報告時 (令和2年12月全体会) 以降に変更があった構成員は氏名の後ろに (新)
 と記載。

じ む きよく
事務局

さっぽろし ほけんふくし きよくしやう ほけんふくし ぶしやう ふくしか
 ☆札幌市保健福祉局 障がい保健福祉部 障がい福祉課

ちいき
 ☆さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における
課題整理状況
(第36回 全体会 資料)
2021/6/11

分冊④

【身体障がい者・知的障がい者

地域生活移行推進プロジェクトチーム】

【精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム】

⇒平成30年度末でプロジェクトチームを終結。平成32年度までに設置予定の精神障がい者の地域包括ケアシステムの協議の場にて課題検討を継続。

※課題No. 下の()内は課題提出年度

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
35 (H25)	〇一人暮らしの不安 これから一人暮らしを始めようとする人たちが持つ不安に対してどのように支援をしてゆくのか。長い間、入所施設や親元で暮らしていた障がい者が、これまで経験したことのない一人暮らしを始めようとする際、少なからず不安を覚えるであろうことは想像に難くない。特にその日常生活にさまざまな支援を必要とする障がい者の場合はなおさらである。 1カ月程度の「宿泊体験プログラム」への助成制度や、家具設備があり保証人不要の短期賃貸マンションを活用したアパート生活の体験入所支援等を実施しているところもある。「地域生活の体験」に向けての支援が、障がい者のみならず、その家族の不安を軽減することに役立つと思われる。(東区18)	一人暮らしを始める人たちの不安を解消する仕組みについて検討する。
69 (H26)	札幌市内、近郊で受け入れてもらえる入所施設が見つけれない。(相談) ※個別ケースのため詳細は記載しません。	入所できる施設が見つけれない 入所施設を効果的に活用するための利用者の循環システムが必要では？地域に出られる人は出し、地域では難しい人を一定期間施設で見ていくという流れが作れたら助かるが・・・。

運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解	結果	カテゴリ
誰が何をいつどのように	運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	
【課題整理済】 住まいに関するプロジェクトチームで検討。及び、運営会議で検討中の身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームができたならそちらでも検討をすることにする。 ※住まいに関するプロジェクトチーム(平成29年6月22日)運営会議から上がってきたこの課題について共有。今後プロジェクトで検討していく課題として共有する。	・平成30年度 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームが設置。課題検討中。 【第34回自立支援協議会全体会】 ・身体障がい者・知的障がい者地域生活移行プロジェクトチームより地域生活拠点に関する提言について審議。全体会の委員全員から承認との回答があったことから、地域生活拠点に関する提言は自立支援協議会の委員の総意と判断し、自立支援協議会から札幌市に対し、地域生活拠点に関する提言書を提出することとする。 ※書面決議書提出者22名。うち、承認22名、不承認0名。 【参考】 ・令和3年4月。障がいのある方の高齢化・重度化や「親亡き後」に備えるとともに、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制の整備を目指し、「地域生活支援拠点(以下、「拠点」という。)」の整備について、拠点に必要とされる機能を市内の既存事業所等が分担する形で担う「面的整備型」により、札幌市における拠点が整備された。	主：住まい 掲載：地域移行
【課題整理済】 触法ケースは、障がいだけの問題ではない。司法は、障害福祉に依頼してくる。入所施設だと、受入は定員がいっぱい。触法ケースについては、発達障がい者支援手法開発会議にお願いしてもよいのではないかな。 入所施設からグループホームに移行しても、高齢になって施設に戻ることがあるので、介護保険に繋がることも必要。地域での受け皿が無いから、入所施設が必要になる。入所施設からの地域移行について、今後の取組をどのようにするか。次年度はアセスメントから実施したい。 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム設置。	・身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームにて課題検討。 【参考】 ・令和3年4月。障がいのある方の高齢化・重度化や「親亡き後」に備えるとともに、障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制の整備を目指し、「地域生活支援拠点(以下、「拠点」という。)」の整備について、拠点に必要とされる機能を市内の既存事業所等が分担する形で担う「面的整備型」により、札幌市における拠点が整備された。	主：社会資源 掲載：地域移行